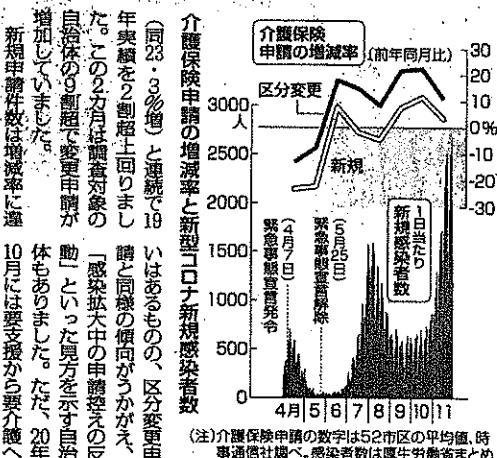


要介護度悪化に警鐘

い軽医療の要介護度が進んだ場合などに出す区分変更申
請の件数が全国的に急増して
このように12月31日、時事通
信の調査分かりました。専
門家は新型コロナウイルス感
染を恐れた高齢者が外出や施
設利用を控えたことで、身体
機能に悪影響が出ている可能
性があると分析。「体力や認
知機能の低下の危険」も目を
向けるべきだ」と警鐘を鳴ら
しました。
調査は都道府県庁所在市
(東京都は新宿区、佐賀市は
古城事業組合の数字)と政令
指定都市の計52市町を対象に
実施。要介護認定の区分変更
申請や新規申請件数などを尋
ね、政府が緊急事態宣言を発
令した2020年4月以来、
同11月までの件数と10年実績(9月(同21.7%増)、10月

緊急宣言後区分変更申請が急増

外出自肅 影響か



定走かれていた。一方で、年少者たる筆者は「感染者数が申請の際に連動がなされ、自発的・付帯的連動度」が「可能生度」と「可能度」を「高い」と分析。「対策を著しく怠らなければ、介護費の増大などは顕在化するのではないか」と警戒しました。